

有限会社 六本木スタジオ 様

Adobe RGBの画像をAdobe RGBの色域でモニター上に再現できる。 カメラマンのニーズに応えられるモニターとしてColorEdgeを選択。

六本木スタジオでは、「いかにお客様が喜ばれるか」ということを第一に考えて撮影環境の整備を行っている。撮影に使用される機器に関しても、プロカメラマンが快適に撮影を行えるように、良いものは積極的に導入していこうという考えだ。その中で採用されているのがColorEdge CG220とFlexScan L797。マルチモニター環境で使用され、正確で効率的な撮影画像の確認をサポートしている。

カメラマンの快適な撮影環境のために 良いものは積極的に導入

同スタジオの石川社長は、「デジタル撮影の現場でモニターの果たす役割は非常に重要になってきています」と話す。特にスタジオの撮影では様々なライティングが施され、カメラ側でも詳細なホワイトバランスの調整をする必要がある。この調整結果はモニターに表示して確認することになるが、調整結果を正確に確認することができなければ、撮影自体に不安を感じることもあるという。だからこそ、同スタジオではモニターの表示性能にこだわって選定を行った。

Adobe RGBの画像をそのままの色で 表示し、見たままの色を出力できる

ColorEdge CG220を導入したことについて石川社長は、「撮影した画像の色がそのままモニターで確認でき、プリンターで出力できるというのは大きいです」と話す。従来はsRGB色域に対応した、パソコン純正の液晶モニターを使用していたため、Adobe RGBの撮影データをそのままの色で再現することができなかった。またAdobe RGB対応のプリンターを導入した頃から、モニターだけがsRGBの色域であるため、データやプリンターとの色の mismatch が気になっていた。モニター上でカメラマンのイメージに



合わせたレタッチを行っても、プリンターで出力してみるとイメージと異なった色が出てきてしまう。そのため改めてレタッチを行わなくてはならなくなり、この出力とレタッチを繰り返すことで時間がかかるのはもちろん紙やインクなどのコストもかかっていた。結果として、スタジオでの色確認はある程度のレベルまでにとどめ、詳細な色確認は自宅に戻ってから行うカメラマンが多かったようだ。しかしCG220を導入したことにより、「モニターとプリンターとのキャリブレーションをEye-Oneを使って行うことで、Adobe RGB色域でのカラーマッチングが実現できました。今ではCG220を使ってスタジオ内でレタッチし、Adobe RGB対応のプリンターでプルーフまでを出力されるカメラマンの方が増えました。」(石川社長)

もちろん、スタジオスタッフはCG220を定期的にキャリブレーションしており、カメラマンがそのまま使っても常に良い状態に整えられている。カメラマンの中には、ColorEdgeに添付されているキャリブレーションソフトColorNavigatorを使って独自のプロファイルを作成し、好みの環境を作る方もいるという。



CG220のクオリティを実感するほどに導入したいという気持ちが固まる

今回ColorEdgeを導入したきっかけを石川社長は次のように話してくれた。「デジタル撮影の機材としてパソコンを導入しようとした頃から、EIZOモニターには関心を持っており、WebサイトでColorEdgeをよくチェックしていました。その後、展示会やショールームでEIZOスタッフと直接コミュニケーションをとり、CG220のクオリティを実感していくほどに、ぜひ導入したいという気持ちが固まってきました。当スタジオは開設から一貫してプロカメラマンの多様なニーズに対応し、より良い撮影環境を提供することを常に思索してきましたので、CG220の導入は必要不可欠でした。」

微妙なライティングの違いも再現できる豊かな階調表現には驚いた

CG220ならばAdobe RGBの撮影データをAdobe RGBの色空間で再現できるというメリットはもちろんのこと、CG220の滑らかな階調表現や広い視野角も製品導入の決め手となったようだ。石川社長は「CG220の豊かな階調表現には驚かされました」と話す。こだわりを持った微妙なライティングが要求される撮影現場で、その違いをモニター上でリアルタイムに確認することができるCG220を使うことで、よりクリエイティブなデジタル撮影が可能となった。また複数のスタッフが一度にモニター上で画像を確認するということで、上下左右とも170°の広視野角と高い視認性も評価されている。

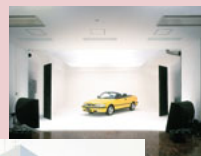
特注のデスク、マルチモニター環境が生み出す作業効率

CG220とL797はマルチモニター環境で使用できるようになっている。たとえばソフトのツールボックスや各カメラのRAWデータ処理ソフトをL797に、処理後の画像をCG220に再現することで広い作業領域を存分に使える。「カメラマンの作業というのは、スピードが要求されます。たとえばモデルを撮影する場合には、そのモデルさんとの連帯感が大切になります。撮影の『間』が大変重要になる中で、画像の確認作業によって撮影が中断するのはできるだけ避けたい。このとき、マルチモニターならではの作業効率はカメラマンにも大変好評です」と石川社長。さらにモニターは特注のパソコンデスクに置かれており、撮影途中にカメラマンが立ったままで画像確認などがスムーズに行えるようになっている。その他カメラ回りの様々な備品をまとめて置けるオリジナルのデスクも用意されており、機器のみならずスタジオで利用されている様々な備品にまでスタッフの「こだわり」、カメラマンに快適な撮影環境を提供したいという「想い」が込められている。



■六本木スタジオ

1967年、前オーナー池田雅氏により設立。以来、スタジオスタッフの質の向上も含め、プロカメラマンの多様なニーズに対応し、より良い撮影環境を提供することを目指す。その結果、車から小物まで各種の商品撮影、ファッション、コマーシャルなど利用される範囲は幅広く、多くのカメラマンや撮影スタッフからの信頼も得ている。



導入製品 ColorEdge CG220
FlexScan L797

製品に関する情報についてはEIZOホームページで

<http://www.eizo.co.jp/>

■製品に関するお問い合わせは

受付時間 月～金 9:30～18:00(祝祭日、弊社休業日を除く)

営業1部 03-5715-2011